

第2期市政モニターが活動を開始

8月7日、阿蘇市市政モニターの委嘱状交付及び第1回会議があり、1期目を終了された21人に代わり、2期目12人が新たに市政モニターとなり市に関する活動を開始しました。

市政モニター制度は、阿蘇市発足当初から住民参加型のまちづくりに、また開かれた市政に寄与するものとして設置され、市政に関心のある方々に建設的な意見を求めるものです。

今回、委嘱を受けた12人は、これから約2年間、阿蘇市について知る研修や情報の受発信、また市長との意見交換を行い、よりよい阿蘇市づくりに貢献されます。



▲市長との意見交換の後、研修として、市担当者の説明を受けながら「草本系バイオマスガス化発電システム」を視察するモニターの皆さん



地元の若者が祭りで「肥後にわか」初披露

8月7日、伝統ある西湯浦八幡宮の祭り（通称：七夕さん）で、地元の若者たち（通称：なべづる劇団）22人が、「肥後にわか」を初披露。「渡る世間はウソばかり」と題し、近所でよくありそうな話題をネタに近所の人たちのマネをするなど愉快地に演じ会場を笑いの渦にまきこみました。祭りにあわせて帰省していた人たちもふるりの元気に触れ大変うれしそうでした。来年もまた『西湯浦は楽しいところだよ、七夕さんには帰っておいで』の心温まるメッセージに乗せ、地域の人たちに笑いを提供してほしいものです。

波野地区で国際ワークキャンプ



8月4日から18日、今年で9回目となる「阿蘇市国際ワークキャンプ」が開催され、世界各国（日本、韓国、フランス、ドイツ、スペイン、アメリカ）の12人が波野地区に滞在し、ワークキャンプを行いました。

ワークキャンプとは、自ら労働を体験しながら現地の人々と交流する国際交流のことで、今回は農業体験、阿蘇市コミュニティセンターでの研修、なみの高原納涼まつりのスタッフなど、波野・役犬原地区の住民を中心に交流を行いました。



▲農業体験でミニトマトの収穫を行なう参加者

標高840m北外輪山のコースを900人が力走



第4回火の国・阿蘇クロスカントリー大会（熊本陸協、阿蘇クロスカントリー実行委員会主催）が8月19日、阿蘇観光牧場クロスカントリーコースで開催され、小学生から一般までの男女900人が1.5kmから10kmの距離で競技しました。会場となったクロスカントリーコースは、国内有数のコースとして有名で、夏をメインに年間1万人が利用する阿蘇市を代表するスポーツ施設です。今大会では、地元小中高校生ほか県外からも実業団や大学の有力選手が走り好レースを展開。また特別ゲストとしてメキシコ五輪銀メダリスト君原健二さんも参加し子どもたちと走りました。